

# TOMOYA PRESS

山本ともや議会活動報告



ごあいさつ

「For the people. から With the people!!  
新年も皆様とともに歩む。」  
～明日を拓く加速的復興で、未来のまちづくりを～

皆様、新年あけましておめでとうございます。

昨年は、むつ市大畠町及び風間浦村を中心に甚大な豪雨災害が発生し、家屋の全壊・半壊をはじめ小赤川橋や斜面の崩落、養魚場やイチゴ畑への土砂流入など、甚大な被害を受けました。

国道279号のバイパス化、そして観光の復興、漁業及び農業の支援施策など、下北地域5市町村と連携し、行政、商工・観光団体、漁協、農協、地域の皆様とともに「チーム下北」で、一日も早い復旧・復興に私自身も尽力して参ります。

そして、世界で初めて新型コロナウイルスが確認されてから、間もなく2年が経過しようとしています。年末年始を含めて、コロナにご対応いただいている皆さん、そしてワクチン接種にご協力いただきました各種団体の皆様に、心から感謝を申し上げます。

リンカーン大統領の有名な言葉「人民の、人民による、人民のための政治」は皆様もご存じのことと思います。タイトルにある「For the people」は皆様のために、「With the people!!」は、皆様とともにです。私が常に心掛け、実践していることを表したことばです。

今年は、地域の皆様の命とくらし、経済を支える、非常に重要な年であります。そして、豪雨災害を経験し、復旧から復興へ舵を向け、前進していく年でもあります。

私自身も下北地域の皆様と、ともに笑い、ともに考え、ともに歩んで参りますので、引き続き、皆様方のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

年頭にあたり、皆様方のご健勝、ご活躍を心よりご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



写真：県議会第308回定例会一般質問

## やまとともや 山本知也 (38歳) Profile

生年月日：昭和58年2月19日生  
(むつ市出身)

経歴：奥内小学校、近川中学校、  
田名部高校卒(陸上部)  
法政大学経営学部経営学科卒

職歴：平成18年 むつ市役所採用  
(教育委員会、総合戦略課)  
平成30年 むつ市長秘書

議会：農林水産委員会  
広報図書委員会  
原子力・エネルギー対策特別委員会  
議会改革検討委員会

青森県議会議員  
山本 知也



## 青森県議会第308回(令和3年11月)定例会一般質問

### 第308回定例会・山本知也一般質問項目

- 1 8月9日からの大雨災害の経験を踏まえた県の危機管理体制について
- 2 消防団員の処遇改善について
- 3 下北地域の冬期通行の確保と道路整備の加速について
  - (1) 国道279号の冬期通行と迂回路について
  - (2) 国道279号の大間町からむつ市大畠町間及び国道338号の大間町から佐井村間のバイパス整備について
  - (3) 下北半島縦貫道路の整備加速について
- 4 県内原子力施設の早期稼働等について
- 5 核燃料物質等取扱税交付金の交付額の見直しについて
- 6 新型コロナウイルス感染症対策について
  - (1) ワクチン接種及び検査体制の県の対応について
  - (2) 新型コロナウイルス感染症の影響をいまだに受けている事業者への支援について
  - (3) コロナ禍における県立高校の部活動について
- 7 青森県立高等学校教育改革推進計画について
- 8 若者の投票率向上対策について



一般質問再質問の様子





## 質問 下北地域の冬期通行の確保と道路整備の加速について

### 山本の訴え!!

- POINT**
- ① 大雨被害にあった国道279号沿いは未だに片側通行区間があるほか、冬場は雪によって道幅が狭くなったり、天候により通行止めになるなど、地元から不安の声が上がっている。
  - ② 今回の災害により、国道279号の大間町からむつ市大畠町間及び国道338号の大間町から佐井村間のバイパス整備、そして下北半島縦貫道路の早期整備の必要性が高まった。

**山本** Q: 国道279号の風間浦村易国間から下風呂までの冬期通行の確保と県道川内佐井線の通年通行に向けた取組状況と通行可能となる時期について伺いたい。

### 県の回答

#### 知事・県土整備部長

答弁: **片側交互通行区間の除雪対策強化として、監視カメラの活用やロータリー除雪車を当該区間の近傍に駐機**し、国道279号の通行確保に万全を期す。川内佐井線については、現在、雪崩被害を防ぐためのスノーシェッドや非常電話設備などの整備をおこなっているほか**除雪機械の増強や畠地区への除雪ステーションの建設**を進めているところであります、令和4年度からの通年通行可能に向け取り組んでいく。



片側通行箇所(風間浦村焼山崎)

**山本** Q: 大間町からむつ市大畠町間の国道279号及び大間町から佐井村間の国道338号のバイパス整備について、重点期間等を設けて整備を加速すべきと考えるが、県の見解を伺いたい。

### 県の回答

#### 県土整備部長

答弁: 8月の大雨被害を受けて、**ルート蒂やアクセス道路の選定などを地元の合意形成のもと進める**こととしており、国道279号のバイパス整備事業を着実に進めていく。大間町から佐井村間の国道338号については、**奥戸地区の陥路区間の解消に向け、今年度から奥戸漁港直近の直角クランク箇所の解消に向けた道路予備設計に着手**したほか、バイパス化についても基礎的調査として用地状況を把握する調査を開始している。



奥戸地区直角クランク

**山本** Q: 下北半島縦貫道路の未着手区間を含めた全線開通の目標を示し、整備を加速すべきと考えるが、県の見解を伺いたい。

### 県の回答

#### 知事

答弁: 今年度は、**過去最大の約93億円の事業費**により、事業中3工区の早期供用に向けた整備を加速させており、**むつ南バイパスの市街地側2.1キロメートル区間については、令和4年度内の供用に向け工事を進めている**。さらに、**未着手区間のむつ市奥内から中野沢の区間**については、全線開通に向け急務であることに鑑み、国に対し、**令和4年度の新規事業化**を強く要望している。



むつ尻屋崎IC以北整備中

### 山本のつぎなる行動

● 奥戸の直角クランクは早急に解消するよう要望し、下北半島縦貫道路については未着手区間の事業化と一部開通についても地域の皆様の声を伺い、市町村長そして先輩議員とともに継続して訴えていきます!



## 青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画について

### 山本の訴え!!

- POINT**
- ① 地区懇談会の意見がほとんど反映されていないという県民の声が多数ある。
  - ② 統合校における学科、系列の枠を超えた科目履修と高度な資格取得については、地域の声が計画に反映された。

**山本** Q: 県教育委員会が、第2期計画で大湊高等学校とむつ工業高等学校を統合することとした理由、下北地区統合校に対して、異なる学科の科目履修や高度な資格取得の実現に向け、どのように取り組んでいくのか伺いたい。



高校生との交流

## 県の回答

### 教育長

答弁：両校を統合することで、本県初の総合学科と工業科の併置校となり、総合学科と工業科の特徴を合わせ、両学科が連携した取組を進めることで、より幅広い生徒のニーズへの対応が期待できる。統合校においても、他県の事例を参考に幅広い科目選択を可能とする教育課程を編成することが考えられる。生徒のニーズ等を踏まえながら、引き続き、資格取得に対応して参りたい。

### 山本・再質問

Q：開設準備委員会の委員として、経済界や大勢で語り合えるメンバー構成の検討、また開設準備委員会前に、地域の方々と統合校の方向性について協議するよう求められているが、どのように進めていくのか伺いたい。

### 教育長

答弁：開設準備委員会では、統合校の教育活動の充実に向け、経済界関係者にも参加していただき、地域の声を丁寧に伺ながら委員構成を検討していく。また、開設準備委員会の設置前に地域の声を伺う手法についても検討していきたい。

### 山本・再質問

Q：第2期実施計画において、下北地区統合校は令和9年度に開設し、むつ工業高校の校地に校舎を新たに整備するとしている。統合校の校舎の規模、建設時期も明示し、開設準備委員会前に議論するべきと考えるが、校舎の規模、建設時期について伺いたい。

### 教育長

答弁：下北地区統合校の校舎の建設にあたっては、統合校の学級数及び学科構成をもとに概ね面積を算出すことができることから、この面積をもとに施設の整備を計画的に行うこととしている。

## 山本のつぎなる行動

- 今回の計画策定の中で欠けているのは、地域の声を聞く姿勢。これから迎える統合校の具体的な教育課程の検討及び新校舎の整備に、地元の声をしっかりと反映するよう強く訴えていきます！

## 質問 コロナ禍における県立高校の部活動について

### 山本の訴え!!

POINT 文部科学省からは、「可能な限り、学校行事や部活動等も含めた学校教育活動を継続し、子供の健やかな学びを保障していくことが必要である」との方針が示されている。

山本 Q：感染症対策と部活動の両立を図り、生徒が安心して練習や大会等へ参加する機会を確保するべきと考えるが、県教育委員会の考えを伺いたい。

## 県の回答

### 教育長

答弁：感染状況に応じた適切な感染拡大防止対策を講じることを通じて、県立高校の生徒が安心して練習や大会等に参加できるよう努めしていく。

## 山本のつぎなる行動

- 部活動において、感染対策に必要な備品等があるならば、県教育委員会で予算化し、部活動を継続できる体制の構築を求めました！子ども達の声も届けます!!



## 質問 消防団員の処遇改善について

### 山本の訴え!!

POINT 8月9日からの大雨災害において、下北地域の消防団員のべ624名が災害救助及び災害復旧のために出動した。

山本 Q：県内市町村の消防団員の報酬等の状況及び処遇改善に向けた検討状況について伺いたい。

## 県の回答

### 危機管理局長

答弁：本県の消防団員の年額報酬の平均は1万5千円、出動手当は概ね1千円から3千円程度。県としては、国に対して地域の実情を説明し、適切な財政措置を求めていく。

